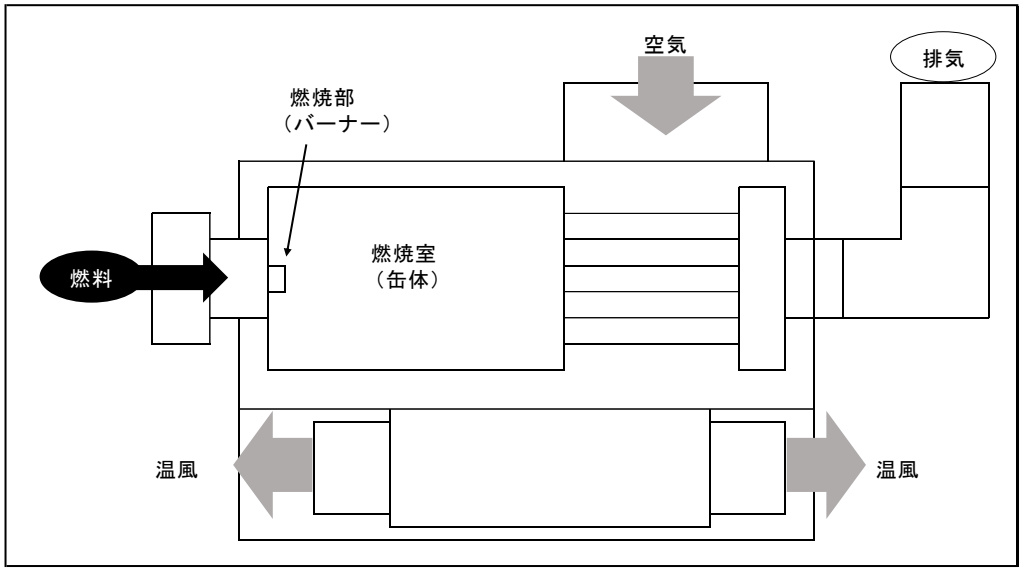
（３）燃焼室（缶体）の掃除

暖房機器の燃焼室内に燃料カス（スス）等が付着すると、効率的な熱交換が妨げられ、燃焼効率の低下を招くこととなる。加温が必要となる時期を十分に勘案して、事前に燃焼室内の掃除を行う。

Ａ重油の場合、燃料に含まれる硫黄や灰分などが燃料カスとして缶体内に残り、シーズン終了後、そのまま掃除をしないでおくと煙管が詰まって黒煙を発生したり、不着火になったり、暖房効率が悪くなったりと、大きなトラブルの原因になる。この燃料カスは湿気を帯びやすく乾けば硬く固まる性質を持っている。また、長期間放置しておくと水分が硫黄分に加わり缶体の腐食を助長する。そのため、暖房シーズン終了の時点で缶体を掃除する。



＜暖房の仕組み＞

取り込まれた空気は、燃焼によって高温になった缶体の外側を通過しながら熱を得て、温風になり、吹き出し口からハウスに送られ、暖房する。